

3) 渡嘉敷村総合戦略有識者会議の検討内容

① 渡嘉敷村総合戦略有識者会議名簿

分野		氏名	備考
産	渡嘉敷村商工会 会長	シンガキ トオル 新垣 徹	副委員長
	渡嘉敷村商工会	コハグラ ヨシノ スケ 古波蔵 善之介	
	渡嘉敷村商工会	キンジョウ ヨウコ 金城 容子	
	渡嘉敷村漁業協同組合	フシワラ フミアキ 藤原 史明	
学	国立大学法人 琉球大学 教授	オソクチ コウイチ 瀬口 浩一	委員長
金	沖縄銀行 高橋支店 支店長	ヒガ トオル 比嘉 透	
	沖縄銀行	ミヤギ サトル 宮城 悟 (オブザーブ)	
	沖縄銀行	ヨシカワ トモキ 吉川 朝邦 (オブザーブ)	
住民	結婚・子育て・しごと 分野代表	ヒガオンナ サナエ 東恩納 早苗	
		コハグラ チアキ 古波蔵 千明	
		ヒガ コウナ 比嘉 優菜	
		シマオカ アツシ 嶋岡 淳	
		サカタ リュウジ 坂田 竜二	
	渡嘉敷区 代表	キンジョウ タカシ 金城 孝	
	阿波連区 代表	キンジョウ ケンイチ 金城 健一	
	渡嘉敷村青年会 代表	アラカキ シンタロウ 新垣 信太郎	
		クニヨシ シンノスケ 國吉 真之助	
	渡嘉敷村社会福祉協議会 代表	コミネ シゲロウ 小嶺 重郎	

第一回 渡嘉敷村総合戦略有識者会議

	<ul style="list-style-type: none"> 資料に関して、ご質問、ご意見等あれば伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 9 ページ、人口の独自推計には、「出生率向上対策と転出抑制・転入促進対策を行うことにより、2060 年の渡嘉敷村人口を 780 人程度を目指す」とある。この推計だと、合計特殊出生率だけの推計で、転出と転入の人数が 0 になる。推計の内容が違うのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 実際には、出生率の上昇と転入が 5 年間で 4 人。20 代前半と 20 代後半の若い世代の転入を純増として増やす。出生率だけの推計ではない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 1 ページ、3 区分別人口の推移の老年人口が減少している要因は何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 190 人から 146 人に減少しているが、特別な要因はない。自然減ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業者数は増えているが、なぜ、雇用者数が減っているのか。現実的には、例えば、長年会社勤めの人が独立し起業した場合は、事業者数が増え、雇用者数が減る。近年、5 年間はそのような傾向が多い。起業した人達は、若い子育て世代が多く、人口増にも貢献している。産業界的には、90%近くが、観光関連事業であり、島のキャパにするとそろそろ限界に近い。第 1 次産業、農業、漁業の担い手がいないので、そこを戦略的に取り組んでいきたい。 自然減、社会減に関して、子ども達が出て行くときに、母親も一緒に出て行くことが多い。これからは、子どもの単身転出を推進する。親はここでしっかり働きながら、子どもは寮で安心して生活するという流れを数年間でつくりたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 転入促進対策について、定住に関しては、雇用と住宅の問題が重要である。雇用は、最初のうちは、アルバイトの情報誌等から、住み込み付きという情報を見て働きに来ることが多い。渡嘉敷村に移住したいという方はたくさんいると思うが、そのような求人情報を村のホームページ等で発信できないか。住宅に関しても、例えば、空き家を貸したいという要望があれば、村がその情報を提供する。また、民宿を格安で長期に滞在できる仕組みづくり、村が補助を付けるなどできればよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 住む場所がないとよく言われるが、村営住宅を増やす予定はあるか。
	<ul style="list-style-type: none"> 村内の空き地、空き家を調査し、要望がある方々に提供できればと考えている。村営住宅の建設は、次年度に向け、県と調整する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 人口 780 人という数値目標は、あくまでもたたき台か。村長はどうお考えか。
村長	<ul style="list-style-type: none"> データを積み上げていくと概ねその数字になると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 推計の過程を次回、まとめる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1産次産業を多くしていくためには、例えば、やんばるでは廃業した畑を無料で貸し出し、生産、成功している。離島でも成功事例がある。そのような事例を提示し、アイデアを出し合った方がいいのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 渡嘉敷村は、本島に近く利便性があるのに、うまく活かせていない。また、体を動かす仕事だけではなく、インターネットを活用した仕事もある。その環境整備も必要である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回は、アンケートの結果も提供し、議論を進めたい。 ・ それでは、本日の第1回策定委員会を終了する。

第二回 渡嘉敷村総合戦略有識者会議 (ワークショップ形式)

●子育て教育環境について

- ・公園がない。子供たちが遊べる場所、子供たちが安心して遊べる公園（森林公園の活用）
- ・住宅環境が悪い。アパートや団地を作る。
- ・仕事復帰ができるように子供を早い段階から預けることのできる所、託児所。島のおばあちゃんでもよい。
- ・出産のために29週から島をでないといけない。その際の助け。
- ・若い世代・子育て世代の意見を拾う場（機会）を作る。
- ・結婚や出産のお祝い金
- ・子育て支援は現在充実していると思う。小さい子を育てるにはとても良い環境だと思う。親の意識改革。
- ・子育ては役場の支援はできている。親の意識改善
- ・託児所：0歳児から
- ・託児所がない。託児所があれば安心して仕事に就ける。村営ではなくても資格を持った方が個人でもできる。
- ・出産手当を充実させる。
- ・学習環境、少人数を活かして、ボトムアップ、優秀者を伸ばす。
- ・塾の日数を増やす。
- ・学童保育。
- ・15歳で島を出るならば、中学生向け料理教室を行う。
- ・進学時の引越し費用の補助。
- ・村が本当に車を確保し、村民が本当に出かけた際に貸し出す。
- ・学童保育が必要。
- ・認可園、無認可園の両方が必要。
- ・医療の安定。必要な薬が島にはない。数が出ないので仕入れない。
- ・若者の出会いの場がほしい。
- ・保育所を増やす。
- ・保育士を増やす。
- ・子ども医療費の補助拡大。
- ・渡嘉敷小学校を阿波連に。クラスの友達人数を理由に島を出てしまう。
- ・成績優秀者に奨学金を出す。
- ・15歳以上～25歳以下の学校。農林水産を学べる学校を作る。

●観光産業について

- ・ 民宿やっても、空き家が多くて活用できないか。
- ・ 民宿、ホテルのバイトや社員の募集を集めて1つのHPで募集する。
- ・ 花畑、(チーパッパー) など、観光にも活用、ちーぱっぱ祭り。
- ・ ダイビングも昔は3本もぐっていたが、今は1本。
- ・ 山間地造成による別荘地としての活用(富裕層への売り出し)。
- ・ グレードの高い高齢者福祉施設の誘致(自然環境を活かした)。
- ・ 冬は美味しいものを食べにくる
- ・ 観光だけではなくて、島で作る美味しいもの。冬場の観光の基本に農業がある。
- ・ 船の運行状況予測を出してほしい。
- ・ ヨーロッパ型のリゾートを目指す。ヨーロッパ型は投資が少ない。島の資材を使う。島の料理を出す。高収益につなげる。
- ・ 冬場の産業づくり、年間通した観光産業の振興。
- ・ 阿波連地域のブランド化。沖縄一の観光地を目指す。
- ・ 夏の台風時の観光業へのキャンセル保障。
- ・ 高齢者向けの教育旅行。自然の専門家によるツアー。(ただのクジラウォッチングではなく、クジラの生態などを専門的に学ぶ。差別化)
- ・ 島の農作物を宿泊施設で使う。

●移住・定住促進

- ・ 空き家対策の推進により住宅環境の充実につなげる(移住者への提供)
- ・ 空き家の改修・活用。
- ・ アパートを増やすことが必要ではないか。
- ・ トートーメーのあるところは貸してもらえない。
- ・ 孫ターンの推進、住宅問題があるので住宅のある人の里帰りターン。
- ・ Iターン、Uターン、孫ターン。孫ターンは家があるので帰ってこられる。働くことができればよい
- ・ Uターン。住宅の確保が必要だが、村営住宅がいっぱい。土地を確保して活用する。仕事があっても住む場所がなければ受け入れられない。
- ・ 空き屋も仏壇がある。
- ・ 阿波連の湿地帯の改良、公園・宅地。
- ・ 空き地・空き家の利用。
- ・ 村営住宅の条件に柔軟性を持たせる。収入の条件をはずすなど。(待ち状態)
- ・ アパートを増やす。
- ・ 村内で育った方が家主かどうか。別荘になっていると活用できない。
- ・ 空き家、空き地の管理。
- ・ 新しい人が入ってこられるように家の確保。

●仕事作り

- ・インターネットインフラを整備し、在宅での仕事を作る。
- ・遠隔地でも可能な IT 産業の創出。
- ・情報発信することで人口増加になる（問い合わせが多い）。
- ・農地の有効活用（一定期間の助成が必要）就農者の育成。
- ・大容量高速ネット。ネットの仕事づくり。
- ・閉鎖環境を活かして農業を種苗育成に特化する。
- ・移住希望のメール、しごとが先か、家が先か。
- ・仕事がなくてもいいという方は、リタイヤ組が多い。
⇒雇用の確保が先
- ・事業者の PR などの活動がもっとあれば、行政は支援しやすい
- ・行政の努力も必要だが、受益者（事業者）の自発的な努力も必要では。
- ・インターネットで在宅でできる仕事
- ・資源を売ると何も残らない。珊瑚、慶良間つつじにつながる商品
⇒養殖や地の利を活かしたもの。
- ・農地の有効活用
⇒後継者不足なので、やる気のある人に交代させる。その支援。
- ・島の物産の宅配。
- ・肥料作り（さかなかす、ススキ）
- ・IT 系の仕事をしている方の誘致（光ケーブルが設置される）
- ・内航路を使った物流。農作物、魚。慶良間諸島の食べ物の流通。
- ・本村出身の若者への就労支援。
- ・農業雇用の創設、教育農業。

●生活環境について

- ・島での物価が高いのでその対策を。冬眠の生活しやすい環境づくり。
- ・物価対策を何とかしてほしい。日常雑貨が高い。
- ・輸送に金がかかる。貨物運賃に支援しても、小売りに反映しているか不明？
- ・いろいろな人の意見を聞く機会。民間と行政の
- ・ネットの送料が安いところでショッピング、泊港まで持ってきてくれるお店など情報の提供。窓口、コーディネーター。
- ・建材、資材の搬入への助成。運搬に金がかかり建築費が高い。

●島の素材を活かした産業、特産品開発

- ・地酒作り、島産米を活かした特産品。
 - ・米粉パンづくり。
 - ・あだんの実の活用、苗が育てやすい。資源が無限にある。
 - ・もずくでの特産品の開発。もずくてんぷら。
 - ・村の特産品、田芋など生産してからの加工。商工会婦人部のように。さらに、その活動を職にできないか。役場が音頭を取れないか。
 - ・お菓子製造業（お土産用）
 - ・シーラの干物（他の魚でも）
 - ・やぎ、いのしし、魚汁 などの料理
 - ・ジャーキーの工場を増やしたい。
 - ・既存の加工品の製造。
 - ・まぐろのあたまを再活用 ⇒肥料、出汁
 - ・魚だし汁⇒レトルト
 - ・島マースの生産
 - ・タームの生産
 - ・美味しい水、渡嘉敷山水の商品化
 - ・桑の葉の生産
 - ・ターミナルの活用 ⇒販売、食堂
 - ・イノシシの商品化、トサツ場：
 - ・レトルト食品化
 - ・お菓子箱製品
 - ・林業としてシイタケの栽培 ⇒きれいな水が必要
今は原木さ栽培、付加価値をつけて林業
→木工業
 - ・イノシシ、3年前で100頭
 - ・レトルト食品（いのししカレー）
 - ・いのしし：焼肉風、赤ワイン煮
 - ・もともとは、大分の猪、イノブタ。
 - ・バーベキューの牛から猪に一部変えればよい
→害をなくして、トサツ、加工までのモデル
 - ・しゃりんばいの染物 →技術を持ってくる。 家庭でできる。
 - ・既存の加工品
 - ・体験施設（モノづくりの体験、文化の体験） →体験型観光
- ※需要がどうか、観光客かと島民かの需要
- ・しいたけ栽培は2箇所栽培している、1tあれば商品化できる（規模が小さい）

- ・工場が小さくて、焼き菓子を作れない。
 - ⇒ 施設が大型化できない（検査の関係）
 - ⇒ 今は午前しか施設を使っていない。
- ・農産物加工場が活用できていない。（乾燥、殺菌）
 - ⇒ もともとウコン乾燥
 - ※知られていない。発信。
- ・米粉パン作り ⇒ 輸入ではなくて、島でつくるもの
- ・渡嘉敷のもずくてんぷら ⇒ 薄いてんぷら
- ・あだんの実の活用
- ・薬草茶
- ・みんなで作っていこうというようなものを作る。
 - ※家庭でできるものと、工場でできるもの
 - ※米は美味しくない。黒米は味噌にしている。
 - ※純渡嘉敷のブランド化
- ・水と米があるので、地酒
 - ⇒ 以前、「渡嘉敷の風」という地酒があった。（高くて飲めなかった）

●その他

- ・地域起こし。システム・制度中心から現場中心主義へ。
- ・料理サークル（伝統料理、薬草料理）、支援金やコンクールを開催する。

第三回 渡嘉敷村総合戦略有識者会議

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ (素案に関して)ご意見等があれば挙手をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 783名というのが、渡嘉敷村の目指すべき数値かどうかは、漠然としなかなか捉えにくいですが、現状を維持することができれば到達するのではないかな。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの783人が渡嘉敷村の今回目指す数値ではあるが、その下の数値は国の推計に基づくもので、もし何もしなければ下がってくるだろう。それをいかに伸ばすかということになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 783人中、子どもたちの割合はどうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計特殊出生率1.8を2.1から2.5まで上げ、子どもの数が増えていくという考えになる。若い世代が増えるというのが理想である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2010年、25歳から30歳の人口が増えている。島の特徴として、15歳から25歳は、高校進学などのため人口が必ず減るが、その後、男女ともに増えた要因というのは分析されているのか。2010年に突出して増えているのは、一度、島を出た人達が戻ってきたのか、今後もこのような状況があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えられるのは、2010年は、国勢調査に基づき、それ以降は、推計に基づく。国勢調査の調査時におそらく、この年代の短期のバイトの方や仕事で住んでいる方などがいた場合、その年代の数値が伸びる。それ以降は、現在いる人からの推計であるので、その分小さくなっていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ その内訳を知りたい。減っていく要因は何か。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ Iターン数が2010年は突出して多かったということになるのか。 ・ Iターン、Uターンの割合の分析は出来ているのか？
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際、働きに来ている方、外から来て定住している方がいると思うが、統計的なデータはない。一度、島を出て行き戻ってくる方よりも、転入して働きに来る方が多いと思われる。 ・ 住民基本台帳で前の住所を確認することで把握できる可能性はある。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ Iターンの受け皿として、まちや雇用をどうするか。帰って来られないというようなことが起こらない雇用促進にもっていく。分析し、Uターンしにくい環境であれば、雇用をどうするかもう少し深く考えたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 15歳以下の人口が一度、減ってしまうということだが、783名を目指す上でそこを維持するためにはどうすればよいか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップやアンケートにも意見があったが、やはり雇用と住宅問題が課題としてある。雇用の面では、産業をどうやって作っていくか。島の特色のあるものを使い、大きいものではなくても産業を作る。ただし、その産業を作っても住む場所がない。それについては、空き家対策などを連携して進めていくという方向である。皆さんの共通認識として課題を認識してはいるが、なかなか取り組みにくいところだった。今回の総合戦略では、そこをしっかりと進めていくというのが本質である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代が働く場所がないのが問題。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 若い世代がどうやって帰って来やすい環境を作るか。今回のワークショップでも雇用を創出するという部分で色々なご意見を頂いた。それらをいかに実現していくか、また、基本目標3に関する部分で、どうやって子育てをしやすくするか、住みやすくするかなどを実現していくことが重要であると考えます。 Iターン、Uターンについて面白い意見があり、なかなかUターンしてもらえない中で、Uターンではなく、孫世代が帰って来られるような魅力作りも可能性としてあるのではないかと。おじいちゃん、おばあちゃんの家に住むことが良い経験になり、その後、孫が島に定着できないか。そのようなことも踏まえ、Uターン、または孫ターンができる環境づくりを整えていければよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 2060年、783名の人口ピラミッドを作ることは可能か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 可能である。事務局の方で人口ピラミッドを作成し、人口ビジョンに盛り込むこととします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 全体として、委員会の中では、783名を目標とするということによろしいか。 これでよろしければ、拍手で承認いただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 拍手
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 783名を目指すというよりは、人口ビジョンである程度の目標値を決め、それに沿った総合戦略、具体的なプログラムを年次毎に評価しながら、実行していく。まずは、目標値が783名という数値なので、この場で承認いただけるのであれば、それがスタートで、次に何をすればよいのかを進めていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 現在、日本は全国的に人口が減少している中で、一億総活躍社会など国会で議論されている。どこの市町村でも人口は現状維持であり、出生率からもわかる。渡嘉敷村の場合は、出生率1.8を2.1に上げるということで、非常に厳しい。今後これをどうするか、真剣に考えていかなければならない。

	<ul style="list-style-type: none"> 今回の地方創生は役所の方だけではなく、地域の方々が主体となり取り組むことが重要である。住民皆で実行していくという強い考えがないと、この人口は厳しいとは思われるが、次のビジョンに向かい、しっかり議論していきたい。そうすれば良い結果が得られると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 2060年というとは相当先の話になる。なせ、そのような先の目標を立てるのか。例えば、2020年、2030年であれば、実感がもてるのだが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 国の方で今回の人口ビジョンを2060年まで目標を作りなさいということで、それに合わせている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 統計を見ると、10代の人口が減少し20代にいくにつれ増えているが、これは観光産業が20代の若者に支えられていることが現れていると思う。その中でUターンしてきた方は一部であり、県外から来られている方が多い。そのような方々が20代の大切な時期に、恋愛・結婚をし、子どもが生まれ、これから生活を安定させなければいけないということで、島から出て行ってしまふ。県外から来た方は仕方ないと思うが、島の出身者で親の支援、家族の協力があり、住居にも困らない人が出て行く場合が多々ある。そのような方々の「出て行く理由」の違いなども今後ヒアリングしてもらえればありがたい。 収入が数100万円というのは年配の方であり、年間100万円台、200万円台で働いている若者が多い。その上、子どもを育てなければならず、自然などの環境は良いが、島に住むことにより収入が少なくなり、この島を出なければならなくなり出て行くのではないかと。 つまり、いま島は経済面を含めて「弱者」と考えられる20代の若者に支えられている社会である。先輩方が経験やゆとりで守ってあげないといけない。20代の若者が減っているという数字だけを見て終わるのではなく、本当に彼らの意見を聞いて子育ての大変さを支援してあげることが、出生率が上がる良い要素につながるのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 良い環境づくりが一番大切だと思う。その良い環境づくりのためにどうするか、この総合戦略になる。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 総合戦略とは、下がりかけた人口のベクトルを上向きにするために今後5ヵ年で出来ることを戦略的に取り組んでいきたいと思います、というものである。長期的なことではなく、来年度から、もしくは明日から出来ることを掲げています。 総合戦略として4つの基本目標を定めて、それぞれの目標に対する取組、施策を設定している。これらについて、ご意見をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップでも多く意見が出ていた雇用と住居の課題については手厚く取り組んでいかないといけないと認識している。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特産品など、取り組むべきことだと思うが、事業主体はどのようになるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合戦略の中では細かくは書き込まないが、方法としては企業の誘致や村と村内企業が共同で協議会を立ち上げる、というようなことが考えられる。そのような実行への方策を含めて議論していくのが総合戦略の次のステップである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金融の面から、これらの取組に対してどのようなサポートが考えられるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 起業支援などのサポートは金融機関として取り組むべきことあるし、そのためにこの委員会に参加している、ということもあるので、支援していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの基本目標について、具体的にどこが、誰が PDCA のどの部分を担うのか、ということを決めたほうが良いのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ その部分は事務局として設定し、書き加えるものとする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標に対する取組について、直近に実現可能なものとそうでないものを分別し優先順位を定めていけば良いのではないかと。その中で上位のものから実現に向けて例えば、行政が補助金を活用するとか金融機関の援助を受けるとか方策を探っていけば良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合戦略の次のステップで優先順位等の設定を行っていくこととする。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の基本目標の1から4の順番に意図はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の事業は「まち・ひと・しごと」と「しごと」が最後になっているが、渡嘉敷村については雇用の面での課題が優先的と考えたため、基本目標1に設定している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雇用の面で考えると、面白い取組や未来・将来性を感じる事業には村外からのUターン、Iターンも考えられるが、新しい事業を立ち上げるのは現状の仕事をしながらというのは現実的に厳しいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は細かいところまで決めるのではなく、大きな目標などを決めて、決まったことに対しては次のステップで村民から意見を聞いて実行していけば良いのではないかと。アンケートなどで実現可能な取組、または実行してくれる人を探り、そこで絞り込まれたものに対して集中的に議論すれば良いのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村外からのIターン者が起業なり、新しいことに取り組むのは都市部と比較して非常にハードルが高く感じる。既存の事業者の利益を損なってしまうことへの配慮も必要になる。また、仕入先・取引先などの情報もない。それらの多くが村内の横のつながり、ネットワークで出来上がっている部分があり、村外から来た人にはハードルが高くなってしまふ。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 村外の人に対して、年間を通してどの時期にどのような求人があったか、というような情報が開示されるだけでも移住への具体的なイメージが付きやすくなるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学などで村外へ出て、就職活動をした際に、村内での求人情報がまったく入手できなかった。村の HP で公開するなど、方法はないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい雇用を、ということも重要だが、現在の雇用の情報をどのように発信していくか、ということも重要だと認識できた。参考にしていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標に対して細分化した事業を実施していくこととなるが、会社だと経営理念などで示すことができるが、村の場合はどうか。村長が目標として掲げることになるのか。そのようにトップなりが掲げることで目標への本気度が変わってくるのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回、有識者委員の方にも時間を割いていただき、また、会議の中でも村の本気度は現れていると思う。今回の総合戦略は村民の皆様はもちろん、HP 等で広く公表していきます。位置づけとしては村の総合計画の基本計画の下にくるような形で事業は進めていくこととなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の定住促進のためには、住居の確保が最優先だと思うが、村で村営住宅の建設予定はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3月定例会の施政方針で、定住促進事業・移住対策への取組を掲げているので、事業として進めていくことになる。これまでは建設用地取得の問題から県との交渉も進んでいなかったが、現在は用地の確保もできているので平成 28 年度からは建設に向けての交渉を始めていけると考えている。それに加えて、総合戦略の中で定住促進計画等を盛り込んでおり、空き家の活用などを行っていくこととなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的取り組みの案で新規起業などが書かれているが実現には向けては課題が多くあると思う。それに対して、「イノシシ被害を産業に替える」というのは、もう少し具体的に検討しても良いのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップでもイノシシについての意見は多く出ている。実現へ向けて、来年度以降に協議を進めていくこととする。全国的な事例を見ても、成功事例もあるので参考にしつつ協議していきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て世代からの意見だが、母親のリフレッシュできる場や、公園の遊具の充実など、子育て環境の改善を行ってほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標 3 の中にハード面での「公園整備」を盛り込むことを検討する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会社は経営のため補助金などは自分で調べるが、家庭の子育て支援などについては村が行っている支援以外は自分で調べることはあまりない。国や県が行っている子育て支援などについて、専門的なアドバイスができる人材がいれば良いと思う。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域・子育てアドバイザーのような人材について検討していきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日のいただいた意見を盛り込んだ上で総合戦略として取りまとめていくこととする。 ・ 基本方針含めて、大きな方向性として承認、了承いただけるか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 拍手
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからが総合戦略のスタートとなるので、より良い渡嘉敷村となるよう今後もご意見いただけるようお願い致します。